

北九州市立八幡病院 小児救急センター

Center for Pediatric Emergency Medicine

Kitakyushu Municipal Yahata Hospital

平成 23 年度

後期臨床研修案内



URL : <http://www.yahatahp.jp/>

目 次

はじめに.....	3
研修施設概要.....	4
小児科スタッフ.....	6
学会等施設認定状況.....	6
後期臨床研修プログラム.....	8
診療実績.....	14
後期臨床研修医の主な学会参加・臨床研究実績.....	18
後期臨床研修医の声.....	20
問い合わせ.....	24



はじめに



小児救急医療は軽症ばかりで救急医療ではなく時間外診療に過ぎないと揶揄されることが多いが、救急医療の本質には急性傷病を軽症で済ますという予防的医療の側面も存在しています。この点を忘れて、救急医療者として地道な医療提供を敬遠し、まさにパターンリズムに満ちた専門救急医療の提供のみに偏重する傾向は避けなければなりません。

実際に、小児救急医療での多くの保護者の要望は、
①わが子の苦しむ姿は見たくない、できるだけ早く正確に傷病を診断治療し、軽症で終わらせてほしい。
②どんな親にも優しく理解同調し、親自身の育児や急病に対する不安・心配点も一緒に解消してほしい。
の2点である。この点を十分理解したうえで小児救急医療を実施する必要がある。軽症者溢れる小児救急医療現場が子ども達・保護者にとっても、小児救急医療提供側にとっても理想であることを忘れない医療提供を行うべきであろう。また、多くの軽症者の中に紛れ込む緊急度の高い重症者を見逃さずに的確・迅速に診療を行なうための医療の質の向上を常に図っておく必要があります。このためにも小児科医同士、他科診療医、看護師、コメディカルなど全ての職種とのチーム医療の提供を常に心がけています。このような医療現場の雰囲気の中から、真に家族患児に満足・感謝される医療提供が行なえると信じています。

すなわち、小児救急医療の提供は、専門的臓器医療提供のみならず、患児自身のヒューマニティと家族支援を含めた総合医療の提供である。いかに純医学的専門性を高めたうえで社会医学的対応を行える

小児救急センター長 市川 光太郎

かが、その医療提供のプロダクトを実のあるものにするか否かにかかっています。健全育成を中心として、子ども達と家族の将来を見つめた小児救急医療の提供を行うことが小児救急医療専門施設の永遠の目標と理想であると考えます。

このような観点に基づいて当センターでは、子ども達の全ての傷病に小児科医が対応できるように研鑽しています。すなわち、内科的危急疾患のみならず事故外傷など外科系危急疾患、さらには心理社会的危急疾患にも対応できるマルチ小児救急医を、スタッフ自身が目指し、さらにその養成を目指して研修指導に邁進しています。

いずれにせよ、コミュニケーション手段を持たない子ども達は、その目、表情、そして全身で自分の気持ちを訴えてきます。そこには未知の世界、驚き、喜びが凝縮されています。まさに、小児救急医療はとても Wondering な世界であることに気付かされます。この不思議で魅力的な「Wondering Pediatric Emergency」を一人でも多くの研修医に体感し、enjoy してもらいたいし、子ども達と保護者の人生の「夢」を共有し、治療後の「喜び」の笑顔を体験できる「やりがい」のある、3Y であり、いわゆる「きつい・苦しい・汚い」の 3K ではない小児救急医療の面白さと醍醐味を一緒に共有して欲しいと心から願っています。当センターは子ども達にとっての Medical home としての役割を担って、充実させていきます。そのスタッフとして多くの仲間の参集を期待しています。是非とも、愉快的仲間達と日々楽しみながら、「やらされている医療」ではなく「やりたい医療」を行いましょ！

研修施設概要

北九州市立八幡病院

院長 市川光太郎(小児科)

所在地 〒805-8534 北九州市八幡東区西本町 4-18-1

URL <http://www.yahatahp.jp/>

電話 093-662-6565(代表)・093-662-1796(FAX)

敷地面積 12,545.90 m²

延床面積 20,294.58 m²(地下1階・地上6階)

診療科目 内科・循環器科・外科・呼吸器外科・小児科・脳神経外科・
整形外科・麻酔科・形成外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・
耳鼻咽喉科・皮膚科・精神科・放射線科・歯科

一般病床 399床(小児科94床・集中治療室14床)

病棟

	東棟	西棟	北棟
6階	救急病棟・循環器	内科	
5階	脳神経外科 耳鼻咽喉科 眼科・皮膚科・麻酔科	整形外科・形成外科	
4階	小児科	小児科	
3階	集中治療室	外科・呼吸器外科 泌尿器科	管理棟
2階	管理棟・会議室	管理棟・手術室	管理棟
1階	救急救命センター 精神科 生理機能検査室 RI・MR 理学療法室 機能訓練室	外来(診療各科) 受付・会計 臨床検査科 放射線科撮影室 薬局・内視鏡室 医療相談室・売店・ATM	第2夜間休日 急患センター
地下1階	食堂	栄養相談室・理髪室	

救命救急センター .. 内科・外科・小児科・脳神経外科

第2夜間休日急患センター . 内科・外科・小児科・整形外科

小児救急センター .. 小児科

その他

- 医局：東 2 階管理棟(スタッフ)と北 3 階管理棟(小児科後期臨床研修医)にあり。
個別に机・椅子あり。インターネットに接続可能な院内 LAN(無線)あり。
冷蔵庫・電子レンジ・共有プリンター・シュレッダーあり。
ソファ・テーブルが設置され昼食はここでとることが多い。
- 図書館：東 2 階管理棟に 24 時間使用可能。コピー機あり。
- 駐車場：利用できる数は限られるが、病院周囲に賃貸する。
- 食堂：東棟地下 1 階にあり。売店は西 1 階にあり。

北九州市立医療センター(新生児医療研修 6 か月)

- 院長 光山昌珠(外科)
- 所在地 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借 1-1-1
- URL <http://www.city.kitakyushu.jp/page/hospital/center/>
- 電話 093-541-1831(代表)・093-533-8693(FAX)
- 敷地面積 16,706 m²
- 延床面積 本館 35,420 m²(地下 1 階・地上 9 階)
別館 6,465 m²(地下 1 階・地上 6 階)
- 診療科目 総合診療科・内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・糖尿病内科・
心療内科・小児科・小児外科・外科・心臓血管外科・脳神経外科・
呼吸器外科・整形外科・麻酔科・泌尿器科・産婦人科・眼科・
耳鼻咽喉科・皮膚科・精神科・緩和ケア・放射線科・歯科
- 一般病床 636 床(一般病床 620 床・NICU 9 床・GCU 21 床・感染症病床 16 床)

北九州市立総合療育センター(療育医療研修 6 か月)

- 所長 佐伯満(整形外科)
- 所在地 〒802-0802 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2
- URL http://members2.jcom.home.ne.jp/ryouiku/sogo_r/
- 電話 093-922-5596(代表)・093-952-2713(FAX)
- 敷地面積 16,219 m²
- 延床面積 12,818 m²
- 診療科目 小児科・整形外科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・精神科・歯科・
小児歯科・矯正歯科
- 入所施設 肢体不自由児施設・重症心身障害児施設
- 通園施設 知的障害児通園施設・難聴幼児通園施設・肢体不自由児通園施設

小児科スタッフ(平成 22 年 4 月現在)

常勤医 16 名(出向 3 名)

新臨床研修指導医 3 名

日本小児科学会専門医 7 名

日本救急医学会専門医 1 名

日本外科学会専門医 1 名

日本血液学会専門医 1 名

後期臨床研修医 4 名

初期臨床研修医 1 名

心理士 1 名

保育士 4 名

資格

JPTEC 1 名

JATEC 4 名

PALS 7 名

ICLS 3 名

ACLS 4 名

学会等施設認定状況

臨床研修指定病院

日本小児科学会専門医研修施設

日本内科学会認定教育関連病院

日本循環器学会専門医研修施設

日本心血管インターベンション学会研修関連施設

日本神経学会認定教育関連施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本消化器内視鏡学会認定指導施設

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設

日本医学放射線学会専門医修練協力施設

日本超音波医学会専門医制度認定施設

日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設

日本外科学会専門医修練施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本胸部外科学会認定施設

日本気管支学会認定施設

日本脳神経外科学会専門医訓練施設

日本整形外科学会認定医研修施設

日本形成外科学会認定医研修施設

日本眼科学会専門医研修施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本麻酔科学会麻酔指導病院

日本救急医学会認定医指定施設

日本プライマリケア学会認定医



後期臨床研修プログラム

【対象】 初期臨床研修を終了した者、卒後3年目～5年目、

【施設認定】 日本小児科学会専門医教育病院(専門医、指導医)

【目標】 小児救急医療を柱とした小児科一般、内科系危急疾患はもちろんのこと事故、外傷など広く外科疾患も対象とした全人的医療と家族を含めた育児支援の実践を目標とする。

【研修目標】

平成20年度「日本小児救急医学会教育委員会」作成の「小児救急医療の教育・研修目標」(以下に概略示す)に則り研修を開始する。

研修カテゴリーと主な研修内容

1 心肺蘇生・処置

心肺蘇生法：Pediatric Advanced Life Support(PALS)

迅速な心肺機能評価

救命救急手技：気道確保法・胸骨圧迫法・AED・除細動・気管挿管・

エアウェイ使用法・静脈路確保・中心静脈路確保・骨髄針使用法・

モニタリング・異物除去・頸椎損傷・救急薬剤の使用法・

胸腔穿刺・心嚢穿刺

2 輸液・輸血療法

輸液：脱水・ショック

輸血：成分輸血法

輸血後副反応

不適合輸血の対処

3 鎮静・鎮痛

鎮静・鎮痛時の薬物投与方法(検査時・処置時)

4 症状・症候

小児救急患者初期評価法：

Pediatric Assessment Triangle(PAT)

Primary Assessment(ABCED)

Secondary Assessment(SAMPLE・診察法)

Tertiary Assessment(鑑別診断に適切な検査)

主要な症状・症候：以下の項目について緊急度・重症度別鑑別診断

心停止・ショック・DIC・無呼吸・チアノーゼ・Septic・appearing・infant・

昏睡・意識障害・体温異常・血圧上昇・不機嫌・易刺激性・脱水症・浮腫・

黄疸・脱力・体重減少・けいれん・頭痛・失調・視力障害・聴力障害・精神神経症状・閉鎖性頭部外傷・呼吸窮迫・吸気性喘鳴・呼気性喘鳴・咳嗽・胸痛・頻脈・動悸・失神・心雑音・管腔異物誤飲・誤嚥・消化管出血・腹痛・嘔吐・下痢・腹部膨満・腹部腫瘤・便秘・陰囊痛・血尿・性器出血・排尿時痛・発疹・眩暈・浮動感・鼻出血・耳痛・跛行・リンパ節腫脹・背部痛・関節痛・咽頭痛・口腔内病変・眼球結膜充血

5 以下の項目の救急を要する病態の特徴と診断・管理

感染症・アレルギー・心疾患・呼吸器疾患・神経疾患・消化器疾患・腎疾患・代謝・内分泌疾患・血液疾患・腫瘍疾患・リウマチ・膠原病・免疫疾患・皮膚疾患

6 外傷・頭部外傷

外傷総論：JATEC

外傷各論：胸部外傷・腹部外傷・脊髄外傷・頭部外傷・顔面外傷・頸部外傷・脊椎外傷・四肢外傷・眼外傷・耳外傷

7 外科的疾患

小児外科疾患：腹膜炎・急性虫垂炎・急性膵炎・急性胆嚢炎・腸重積・鼠径ヘルニア・肥厚性幽門狭窄症・イレウス(単純性・絞扼性)消化管異物・肛門疾患・腸回転異常・中腸軸捻転・卵巣茎捻転・胆道拡張症・横隔膜ヘルニア・消化管出血・ポリポシス・ヒルシュスプルング病

整形外科疾患：単純性股関節炎・肘内障・先天性股関節炎・大腿骨頭すべり症・無血管壊死

耳鼻科疾患：鼻出血・耳鼻科的異物

泌尿器疾患：急性尿閉・亀頭包皮灸・急性陰嚢症・精巣捻転・精巣上体炎・精巣垂捻転・陰茎硬直症

婦人科疾患：会陰部異常(陰唇癒合・処女膜閉鎖・尿道脱)・子宮外妊娠・月経困難症・子宮出血

眼科疾患：眼瞼異常・結膜炎・角膜異物・角膜損傷・緑内障・虹彩炎・ぶどう膜炎

胸部外科疾患：気胸・胸水貯留・心嚢液貯留・心タンポナーゼ・気道異物・気管および気管支外因性狭窄

脳神経外科疾患：脳圧亢進症・水頭症・頭蓋内出血(くも膜下出血・脳動静脈奇形・脳動脈瘤・もやもや病)

8 中毒

薬物誤飲・経皮吸収中毒・化学熱傷・吸入による障害

9 環境因子による救急

溺水・体温異常・刺咬傷・熱傷

10 災害医療・メディカルコントロール

START・DMAT

11 突然死を来す疾患

SIDS・ALTE・窒息・虐待・心疾患・先天性代謝異常

12 子どもの心と社会

子ども虐待：身体的虐待・ネグレクト・性的虐待・心理的虐待・

乳児揺さぶられ症候群・代理ミュンヒハウゼン

精神症状：パニック障害・過換気症候群・強迫症状・転換障害・解離障害・

大量服薬・リストカット・せん妄

13 小児保健・グリーフ・ケア

小児保健正常な成長と発達・外傷・事故の疫学・予防接種

グリーフケア：死別反応・喪の過程・悲嘆の過程・グリーフケア・死別後のケア・

医療者のケア・家族(遺族)の心情の理解・行政の役割

14 搬送医療

呼吸不全・循環不全・中枢神経異常・多発外傷

15 医療倫理・法律

地方の保健医療統計・リーダーシップ理論・コーチング・脳死判定・医師法・刑法・

民法・児童虐待防止法・臓器移植法

16 より良い患者医療にむけて

コミュニケーション技術・Holistic Medication EBM NBM

17 臨床研究方法

児童の権利条約・臨床および医学統計の基礎知識・研究デザイン

【研修の特徴】

北九州市立八幡病院 小児救急センター
 Center for Pediatric Emergency Medicine
 Kitakyushu Municipal Yahata Hospital



Narrative Based Medicine **Evidenced Based Medicine**



【研修ローテーション】

希望により各6か月下記の施設にて新生児医療と療育医療の研修が可能。

☞ 北九州市立医療センターNICU(施設概要は5ページを参照)

市立病院としては全国初の総合周産期母子医療センターとして北九州市周辺地域の中心的な役割を担い、24時間体制で周産期の集中治療を行っている病院。

☞ 北九州市立総合療育センター(施設概要は5ページを参照)

重症心身障害児から軽度発達障害児まで、さまざまな専門職のスタッフにより包括的な療育(リハビリテーション)を行う施設。

実際の後期臨床研修医ローテーション

	1年目		2年目		3年目	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	当院	療育センター	当院	当院	NICU	当院
B	当院	当院	療育センター	当院	当院	NICU
C	当院	当院	当院	療育センター	当院	当院
D	当院	当院	当院	NICU	療育センター	当院
E	当院	当院	NICU	当院	当院	療育センター

【スケジュール】

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土日祝日
7:30	カンファレンス			カンファレンス,抄読会		
7:50		カンファレンス	カンファレンス		カンファレンス	
9:00	診察	診察	診察	診察	診察	回診
11:00		回診		回診		
13:30	回診	乳児健診	回診		回診	
14:00		予防接種				
16:00					症例検討会	

業務スケジュール

	月	火	水	木	金
A(3年目)	外来処置	病棟処置	外来処置	外来陪席・トリアージ	外来陪席・トリアージ
B(3年目)	病棟処置	外来処置	外来陪席・トリアージ	病棟処置	外来処置
C(2年目)	外来陪席・トリアージ	外来処置	病棟処置	外来処置	外来陪席・トリアージ
D(2年目)	外来処置	外来陪席・トリアージ	外来陪席・トリアージ	外来処置	病棟処置
E(1年目)	病棟処置	外来陪席・トリアージ	外来処置	外来陪席・トリアージ	外来陪席・トリアージ
F(1年目)	外来陪席・トリアージ	病棟処置	外来陪席・トリアージ	外来陪席・トリアージ	外来処置

【処遇】

身分 常勤嘱託職員(レジデント)
 勤務時間 8:30～17:00
 給与 3年次：月額 34 万円
 4年次：月額 39 万円
 5年次：月額 49 万円
 宿日直手当 2 万円+時間外手当（実働時間換算）
 年末年始は特別手当有り
 時間外勤務手当 有り
 有給休暇・夏期休暇 ... 有り
 社会保険など 厚生年金・健康保険・労災・雇用保険
 健康管理 定期検診・電離放射線検診

実際の給与明細

単位：万円

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支給額	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408
日当直		17.5	24.5	10.5	25	25	40	45	25	25	40	20	297.5
時間外		4	4	4	4	3.6	4	4	4	4		4	39.6
合計	34	55.5	62.5	48.5	63	62.6	78	83	63	63	74	58	745.1

* 2月は時間外届け忘れ

単位：万円

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支給額	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468
日当直	25	16	35	35	25	30	30	20	20	20.3	30.6	20	306.9
時間外	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
合計	68	59	78	78	68	73	73	63	63	63.3	73.6	63	822.9

単位：万円

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支給額	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	588
日当直	30	20	25	20	20	20	25	14	24	34.9	32.6	22	287.5
時間外	4	35	25.3	24.6	11.3	15	12.6	6.1	2.4	0.8	3.2	2.8	143.1
合計	83	104	99.3	93.6	80.3	84	86.6	69.1	75.4	84.7	84.8	73.8	1018.6

* 4月より時間外が上限無制限になった。

診療実績(平成 19 年度)

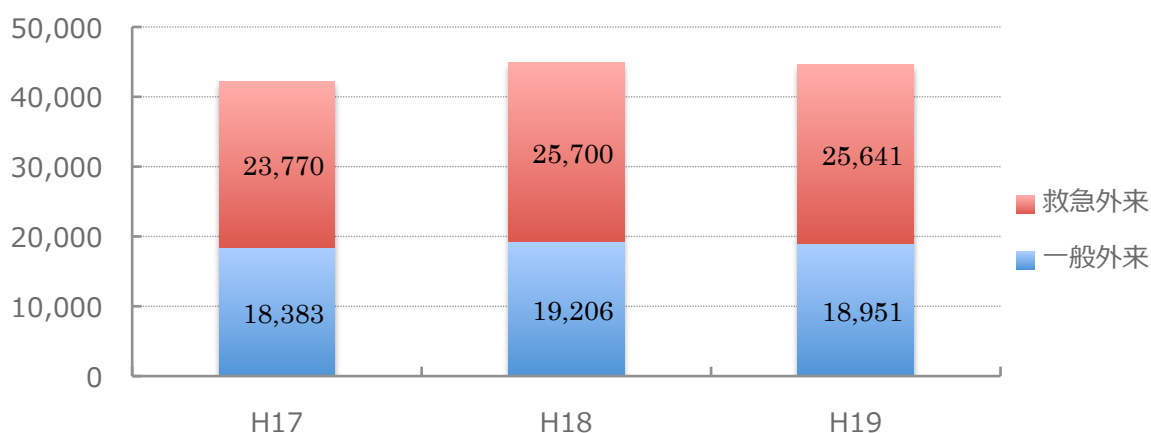
【外来】

平成 19 年度の総外来患者数は 44,592 名(1 日平均 122.2 人).

一般外来が 18,951 名, 小児救急センター・第 2 夜間休日急患センターが 25,641 名.

下図に過去 3 年間の年間総外来患者数の推移を示す.

平成 17 年から 19 年度までの年間総外来患者数



【入院】

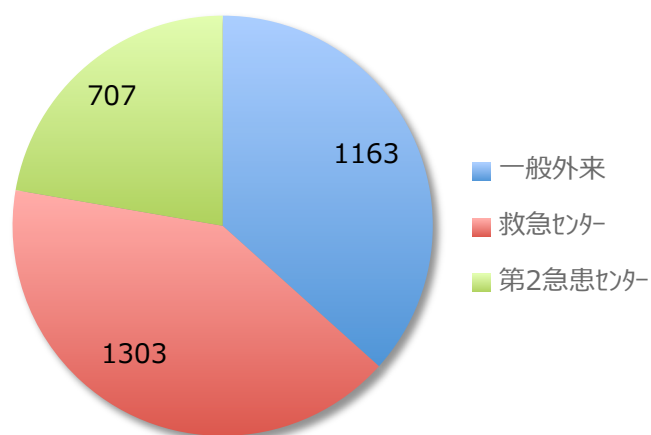
平成 16 年度の小児科総入院患者数は 3,173 名(1 日平均 8.7 名).

一般外来からが 1,163 名, 小児救急センターからが 1,303 名, 第 2 夜間休日急患センターからが 707 名(円グラフ).

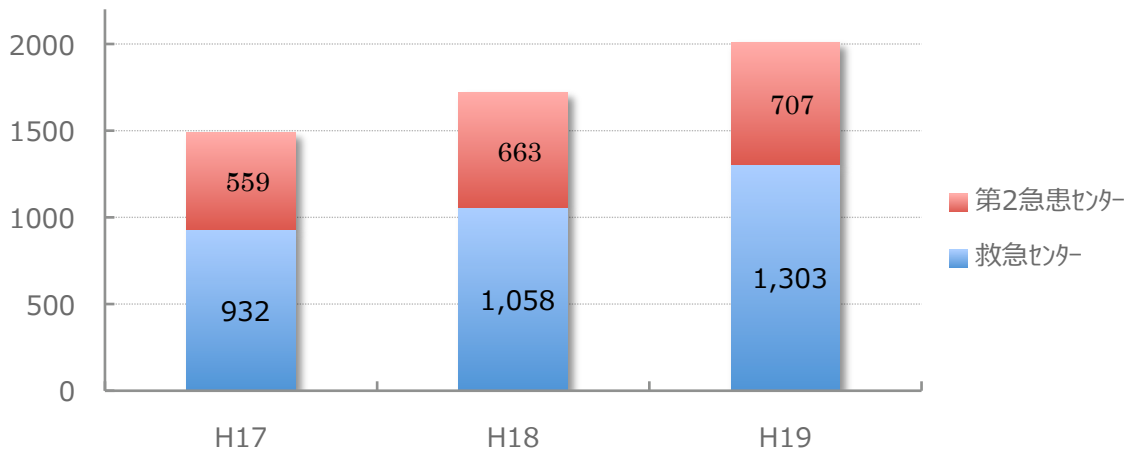
下の棒グラフには過去 3 年間の一般外来以外からの入院患者数の推移を示す.

※平成 21 年度の小児科入院患者数は 4013 名 (1 日平均 10.9 人)

平成 19 年度総入院患者数



過去3年間の一般外来以外からの総入院患者数



【主要疾患】

入院患者は月平均 20~30 症例.

小児外科疾患・泌尿器科疾患・耳鼻咽喉科疾患・脳神経外科・整形外科疾患などの外科系疾患も手術の有無を問わず主治医として管理を担当.

16 ページには平成 19 年度入院患者主要疾患とレジデント 3 名の担当症例を示す.

平成 19 年度入院患者主要疾患

疾患	症例	疾患	症例
RS ウイルス感染症	430	細菌性腸炎	31
急性肺炎	429	嘔吐症	30
急性気管支炎	345	クループ症候群	28
不明熱	178	尿路感染症	27
気管支喘息	162	川崎病	26
喘息性気管支炎	139	腸重積症	25
急性胃腸炎	137	骨折	23
麻疹	125	鼠径ヘルニア	23
ロタウイルス感染症	102	急性中耳炎	22
熱性痙攣	74	リンパ節炎	21
上気道炎	74	アレルギー性紫斑病	20
インフルエンザウイルス感染症	68	成長ホルモン分泌不全性低身長	18
アデノウイルス感染症	57	無菌性髄膜炎	15
無熱性痙攣	45	単純性股関節炎	14
急性虫垂炎	37	頭部打撲	14

研修期間中の担当疾患

A(レジデント1年目) B(レジデント2年目) C(レジデント2年目)

研修期間(か月)	12	12	18
入院担当患者総数	254	245	320
月間入院担当患者数	21	20	18
中枢神経系疾患	15	28	46
てんかん	5	1	4
有熱性痙攣	7	2	17
細菌性髄膜炎	1	1	1
無菌性髄膜炎	0	20	17
脳炎	1	1	4
その他	1	3	3
呼吸器疾患	134	133	157
気管支喘息	16	14	13
喘息様気管支炎	14	21	13
クループ症候群	6	3	1
細気管支炎	6	1	5
上気道炎	21	22	32
気管支炎	17	18	31
肺炎	36	49	58
百日咳	1	1	1
麻疹	7	0	0
その他	10	4	3
循環器疾患	4	3	4
川崎病	4	3	3
その他	0	0	1
消化器疾患	40	32	42
感染性腸炎	31	24	23
細菌性腸炎	6	2	6
肝障害(EBV,CMV)	2	2	5
腸重積症	1	4	6
その他	0	0	2
血液疾患	4	3	16
貧血	1	1	1
サラセミア	0	0	1
白血病	1	1	1
その他	2	1	13
代謝内分泌疾患	1	0	3
糖尿病	0	0	1
若年性特発性関節リウマチ	1	0	0
その他	0	0	3
腎泌尿器疾患	4	6	8
尿路感染症	2	3	5
腎炎症候群	1	1	1
ネフローゼ症候群	0	0	0
その他	1	2	2
筋・皮膚・骨疾患	7	7	14
股関節炎	2	2	2
骨髄炎	1	0	1
腸腰筋膿瘍	1	0	3
その他(アトピー皮膚炎など)	3	5	8
境界領域・小外科疾患	11	5	12
虫垂炎	5	1	6
ヘルニア	4	2	1
扁桃、アデノイド	0	0	1
その他(急性中耳炎など)	2	2	4
新生児疾患	5	10	0

北九州市立八幡病院小児救急センター

救急・事故・中毒	9	14	5
多発外傷	9	11	2
虐待	0	0	1
その他	0	3	2
心理精神的疾患	5	1	5
検査入院	5	2	2

※ 北九州市立八幡病院での担当症例のみ集計



後期臨床研修医の主な学会参加・臨床研究実績(平成 19-22 年度)

◇◆◇◆◇学会参加◇◆◇◆◇

日本小児科学会総会	九州・沖縄小児救急医学研究会
日本小児科学会福岡地方会例会(年 5 回)	北九州小児感染症懇話会
日本小児救急医学会	北部福岡感染症懇話会
日本神経感染症学会	北九州小児血液腫瘍懇話会
小児集中治療ワークショップ	北九州小児救急ワークショップ など

◇◆◇◆◇学会発表 (レジデント) ◇◆◇◆◇

第 111 回日本小児科学会総会

- Rotavirus 感染と呼吸器症状 藤田弘之
- 小児期嘔吐時のリンパ球減少症 小野友輔
- ヒト型化抗 IL-6 受容体抗体療法後に低身長を改善を認めた Castleman 病の 10 歳女児例 小林匡
- Mumps virus 感染後に水頭症を合併した慢性髄膜炎 富田一郎
- Hib 髄膜炎は初診時 SIRS 基準を満たさない 富田一郎
- 医学教育としての小児救急トリアージ 当院の経験と問題点 有方芳江
- Xp21 隣接遺伝子欠失症候群の 11 歳女児例 菱谷好洋

第 112 回日本小児科学会総会

- Bone bruise 症例にみる乳幼児長管骨外傷に伴う骨髄変化と治癒過程 藤川佳代
- 川崎病児の心拍数上昇は独立した"IVIG 療法不応の危険因子"となる 北川篤史
- 学童期以降の肺炎球菌性菌血症の疫学的検討と対策 小野友輔
- 小児 Campylobacter 腸炎の重症度とくに血便に関する危険因子の検討 福政宏司
- 参加型ワークショップによる「小児救急トリアージ」の院外教育 有方芳江
- Leaving Without being Seen 緊急度からみた実態調査と課題 有方芳江
- 血管炎と抗リン脂質抗体症候群を合併したマイコプラズマ脳炎の 13 歳女児例 菱谷好洋
- 最近 5 年間における基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBLs) 産生菌の検出状況 中村有香里

第 113 回日本小児科学会総会

- 熱性痙攣と神経原性肺水腫 藤野光洋
- 類白血病反応症例の特徴と予後 石原唯史
- 偶発的に発見された Armoured-brain の 10 歳女児例 福政宏司
- 確定診断がおくれた小児眼窩壁骨折の特徴と対策 小野友輔

第 23 回日本小児救急医学会

小児救急における血球貪食性リンパ組織球症の早期スクリーニング基準 菱谷好洋

第 22 回日本小児救急医学会

小児科医による救急トリアージと保護者満足度 野口磨依子

来院後未受診帰宅の要因と小児救急トリアージの課題 有方芳江

小児期貧血に対する診療実態と小児救急医療の役割 大久田隆

MRI 所見上、化膿性骨髄炎との鑑別を要した Bone bruise 症例の検討 藤川佳代

第 21 回日本小児救急医学会

インフルエンザ菌性髄膜炎と菌血症の発症経過に関する 比較検討 富田一郎

来院時低血糖症 46 例の背景と予後に関する検討 有方芳江

ケースシナリオを利用した院内トリアージ教育の現状 緒方由喜子

第 12 回日本神経感染症学会

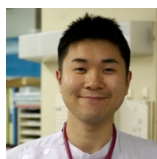
頭痛を主訴とし水頭症を合併した持続するムンプス髄膜炎の 1 例 富田一郎

第 4 回北部福岡感染症懇話会

最近経験した小児骨髄炎の症例検討 藤川佳代



後期臨床研修医の声



僕が八幡病院に来てあっという間に、2年以上が過ぎました。(うち半年間は北九州市立総合療育センターで研修)

いや、本当にあっという間です。なにしろ症例が圧倒的に豊富で、面白いと思った症例はその場で勉強して自分のものにしておかないと、明日またどんなに面白い症例が来るか、わかったものじゃありません。神経芽腫から起こる眼振なんて、教科書に書いてあるだけだと、実際に見るまでは信じていませんでした。

この間も、不明熱の入院で受け持った患児が目の前で痙攣群発し脳炎を発症しました。すぐにICUへ転棟し、脳低温療法、人工呼吸管理と集中治療の醍醐味を経験することになるとは、その日の朝は思いもよらなかったのです。毎日が新鮮で、驚きにあふれた研修をさせて頂いています。「小児救急は Wonderful World である」との当センターのボス、市川先生の言葉はまさに正鵠を射ている、そう実感している日々です。

後期臨床研修一年目の後半から一次救急の外来を担当しています。これがまた、次々といろいろな患者さんがいらっしゃいます。この発疹はなんだろうか。この熱はなんだろうか。“ああ今日は無事に終わったなあ、”そんな事を思える日は、もちろんありません。あの子はどうなっただろうか、悪くなっていないだろうか。当直明けの朝はいつもそんな不安で一杯です。でも当センターでは毎朝カンファレンスがあり、一晩の疑問を吐き出し、先輩に教わることで大部分を解決することが出来ます。近隣の開業医



菱谷 好洋(レジデント 3年目)

平成 16 年 3 月大阪大学医学部卒

同大学医学部附属病院と市立池田病院で初期臨床研修を修了

平成 18 年 4 月より当院で後期臨床研修中

の先生方との連携も抜群で、気になった症例のその後を知ること易いです。もちろん、入院して頂いて最後まで経過を見ることが多いです。糖尿病や白血病といった疾患を、救急外来初診時から最後まで経験できるのが当センターでの研修の旨みです。疑問→解決の繰り返しの中、日々成長している自分を実感します。

ある日、見た目にも明らかに具合の悪い乳児がやってきました。脳動静脈奇型からの脳出血でした。この時は焦りました。点滴もなかなか入りません。これが他の病院で起こったことならば、この赤ちゃんはひょっとして助からなかったかもしれません。でも、ここが当センターを後期臨床研修先として強くお勧めする所。自分以外にも誰かが常にいます。この赤ちゃんは、ボスの助言を得て対処し、事なきを得ました。ここでは、

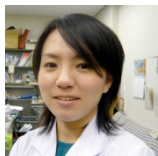
不必要な不安を覚えながら研修することがないので。

当センターの後期臨床研修では、希望により、NICU や療育センターでの研修を行うことができます。僕は療育センターを半年間選択し、脳炎や頭部外傷で救急センターを退院したその後の経過を、身をもって知りました。重症心身障害児者医療に対し、出来れば避けたいような気持ちを持っていましたが、そんな迷いが吹き飛びました。小児科医として、大変重要な経験になります。小児科を志す先生には是非、お勧めしたいのです。

当センターでの研修は、ある程度厳しいものですが、春にはバーベキューをしたり、

初夏にはホテルを見に行ったり、ボスが突然、“ビールを飲むぞー”と言い出したり、みんな適度に息を抜きながら、仕事をしてい

ます。日本各地からいろんな人が集まり、とても楽しい医局に仕上がっています。Everybody Welcome at Anytime



平成 19 年 4 月より当院小児科で後期臨床研修をさせていただいています。

当院小児科の後期臨床研修医は 14 名と多く、切磋琢磨できる環境にあると思います。市中病院で後期臨床研修医がこんなに多い病院もなかなかないのではないのでしょうか。

小児科医を目指すからには、こどもに関わるもの全てを受け止められるようになりたいと思い、当院小児科を後期臨床研修の場として選択しました。当院の小児科研修はとても幅広く、いわゆる小児内科疾患だけでなく、外傷などの外科的疾患も含めて、こどもに関わる多くの疾患を経験することができます。昨年は月間約 20~30 の症例を経験しました。10%弱は外科系疾患(術後管理を含めて)で、精神疾患も数例経験させていただきました。当直は月に 5~6 回程度で、後期臨床研修医 1 年目の秋頃より夜

藤川 佳代(レジデント 2 年目)

平成 17 年 3 月長崎大学医学部卒

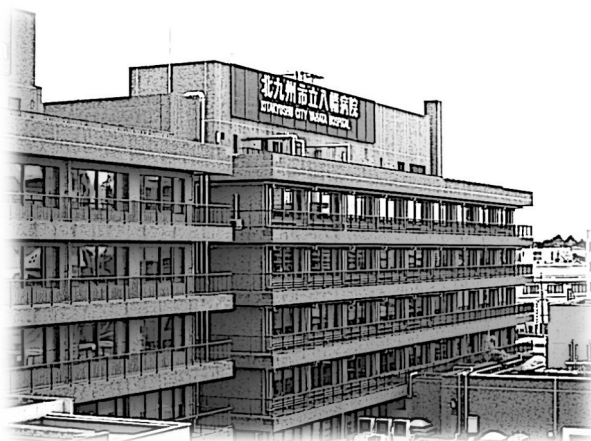
同大学附属病院で初期臨床研修を修了

平成 19 年 4 月より当院で後期臨床研修中

間の 1 次救急外来をしています。3 人体制当直(夜間外来, 救急外来, 病棟各 1 人)なので、1 人で悩むことなく、遠慮なく相談できる体制になっており、安心して当直ができます。安心とはいっても、毎回毎回、緊張の連続ではありますが。

仕事以外でも、いろいろなイベントがあります。時々、サプライズで市川先生宅でのお食事会があります。市川先生が作っていただいた美味しいご飯とお酒で、仕事を忘れてみんなと過ごすこともよくあります。

研修病院を選択するにあたって、自分のやりたいことができるか、研修病院のその科が有名であるか、待遇はよいか、などなど、これらの要素は挙げればきりが無いと思います。まずは、どれだけ楽しく仕事ができるかが 1 番ではないのでしょうか。毎日が楽しく、当院小児科を後期臨床研修の場として選択して正解だったと思います。



memo

問い合わせ

URL <http://www.yahatahp.jp/>

Tel 093-662-6565(代表)

研修希望および病院見学は下記までメールでご連絡ください。

小児科宛 pediatrics@yahatahp.jp

小児科診療部長 天本 正乃 masano-y@yahatahp.jp

